

福岡県B市

基本情報

- 経営面積:48ha
(うち借地33ha)
- 土質:壤土
- 従事人数:6人
- 臨時雇用:4名

品目	作付面積	平均区画
主食用米(移植)	28ha	50a
主食用米(直播)	0.5ha	50a
麦類	20ha	—
大豆	5ha	—
ブロッコリー	1ha	—

経営方針(重視・優先していること、こだわり等)

- 水稲は病害虫の発生が少ない早期栽培がメイン(8割)
- 効率的な作業のため独自に水田の大区画化、ブロック化
- プラウを用いた深耕により、気象変動に強い稲作り
- 経営分析による部門別の経営管理を徹底
- 雇用の導入・作業の分担化により、効率的でゆとりある経営を実現

稲作の施肥・防除におけるコスト低減の取組

- 肥料
 - ① 肥料会社と提携し、品種ごとのオリジナル緩効性肥料を共同購入し、追肥作業を省略
 - ② 圃場管理システムを利用し、圃場毎に施肥量を調整
- 農薬
 - ① 早期栽培により農薬代を低減(箱施薬剤が不用)
 - ② 無人ヘリ防除委託により、適期防除・作業の省力化
 - ③ 大口取引や大型規格で購入することで資材費低減
- 機械
 - ① レーザーレベラーを用いた圃場の均平化により、除草剤の効果安定、スクミリンゴガイの被害低減
 - ② GPSガイダンスの利用により、施肥・散布量を削減

導入効果

- 施肥
 - 肥料費 ▲約0.5割
 - 労働時間 ▲約6.5割
(慣行栽培との比較)
- 防除
 - 農薬費 ▲約1.5割
 - 労働時間 ▲約6割
(慣行栽培との比較)

支援体制

- 大規模稲作農家間の情報交換(情報源)
- 技術情報の提供、各種事業の紹介(関係機関)
- 農地集積、圃場の大区画化等への理解(地域集落・地権者)

など

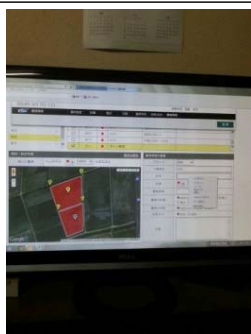
課題・今後の目標

- 収量及び品質の維持を第一に労働時間及びコストを削減
- ICT技術を利用し、無駄を省いたコスト低減

など



レーザーレベラー(均平化)



きめ細やかな圃場管理